

回答票（第1回福岡市食育推進計画検討部会 質問）

質 問

「⑩学校給食における市内産農林水産物利用割合(農畜産加工品)」「⑪学校給食における市内産農林水産物利用割合(水産物・加工品含む)」について、H32年度の目標値が低いのではないかと。また策定時(H27年度)と比べ、現状値が大きく増えたのはなぜか。

〈参考〉 ⑩学校給食における市内産農林水産物利用割合(農畜産加工品)

策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (平成32年度)
4品	9品	7品

〈参考〉 ⑪学校給食における市内産農林水産物利用割合(水産物・加工品含む)

策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (平成32年度)
1品	10品	2品

回 答

⑩学校給食における市内産農林水産物利用割合(農畜産加工品)

●H32年度の目標値について

農畜産物を使用した加工品については、ここ数年(H27年時点)学校給食に採用されており、関係者で学校給食用の加工品の開発に取り組んでいる。また福岡市でも市内産の農畜産物の6次産業化の推進を行っており、今後学校給食用の取り組みも視野に入れて取り組みを行うため、5年後の32年度までに3品目増加し7品目とした。

●現状値が大きく増えた理由について

農林水産局、JA、教育委員会、学校給食公社で構成される「市内産農水産物学校給食活用協議会」により、市内産農産物等を使用した加工品の利用や新たな加工品開発に向けた意見交換、農産物の生産計画と給食の献立計画を調整するなどした結果、使用品目数が大きく増加した。

⑪学校給食における市内産農林水産物利用割合(水産物・加工品含む)

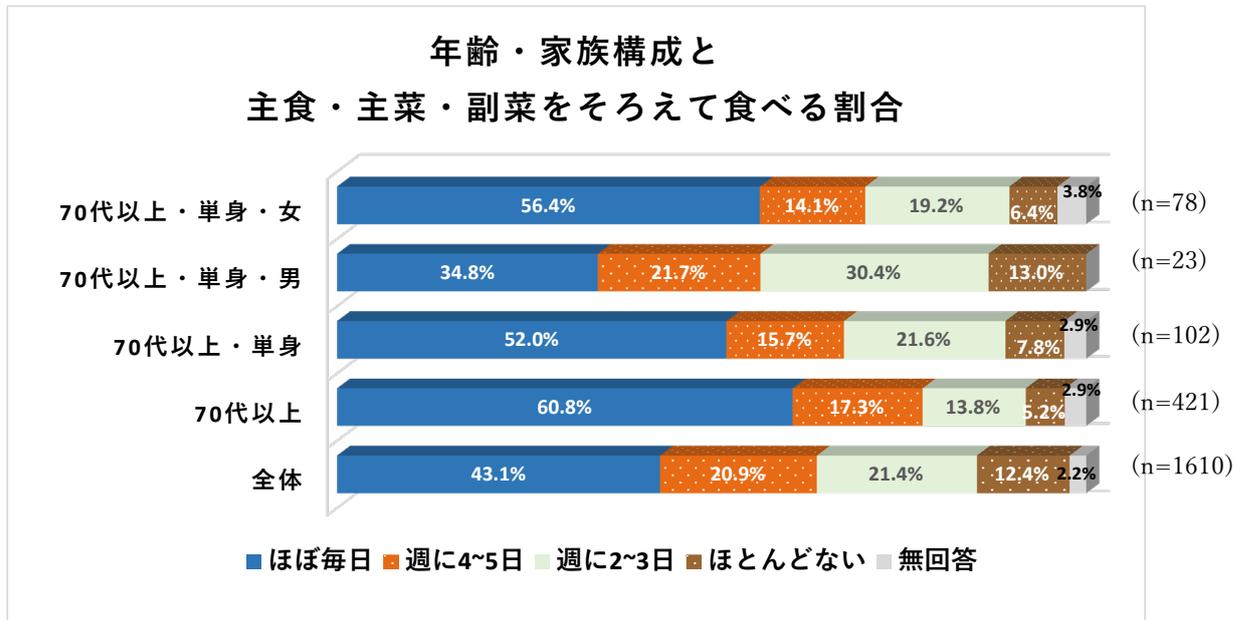
●H32年度の目標値について

第3次計画策定時、学校給食における市内産水産物の利用品目は、平成20年度以降増えていない。現状の中で供給可能な水産物を探りつつ、加工品の開発も行っており、今後も取り組みを続けていくことから、新たに加工品も含めた品目数とし、第2次計画の目標値と同様2品目とした。

●現状値が大きく増えた理由について

⑩と同じ

年齢・家族構成と主食・主菜・副菜をそろえて食べる割合について



- 70代以上は、全体に比べて週に3日以下の割合が、14pt少ない。
- 70代以上の単身者は、70代以上全体に比べて週に3日以下の割合が、10pt多い。